

(一社) 日本家政学会第68回大会 P-123
展示：2016年5月28日(土) 11:00～29日(日) 14:30
討論：2016年5月29日(日) 13:15～13:45
W3棟 1階P会場, 金城学院大学, 名古屋

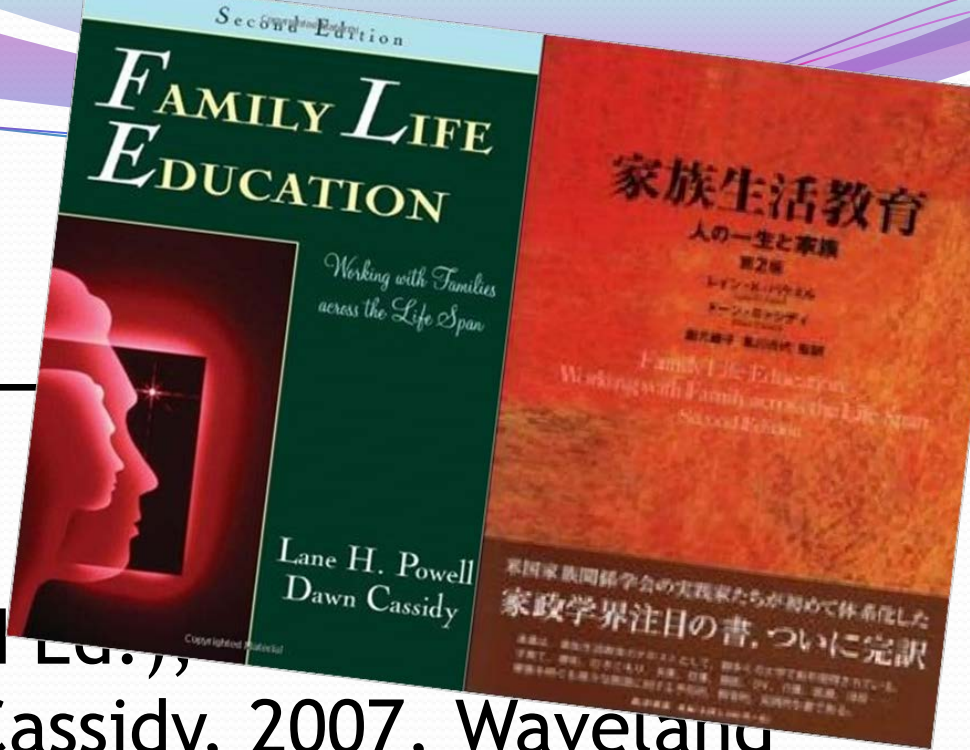
家族生活教育における 効果的なグループ・ワーク

– *Family Life Education: Working with Family across the Life Span (2nd Ed.)* を分析する –

○倉元綾子¹, 黒川衣代², 正保正恵³, 山下いづみ⁴
(¹鹿県短大, ²鳴門教育大, ³福山市大, ⁴FLEふじ/富士市議)

目的・方法

- *Family Life Education: Working with Family across the Life Span* (2nd Ed.), Lane H. Powell & Dawn Cassidy, 2007, Waveland Press, USA (邦訳『家族生活教育：人の一生と家族』倉元綾子・黒川衣代監訳, 2013, 南方新社)
- 第5章 Understanding Group Processを分析
- 家族生活教育における効果的なグループ・ワークについて明らかにする。
- 文献分析



結果-1:内容構成

- グループを定義する
- グループに参加する価値
- ファシリテーターの役割
- 参加したい雰囲気醸成
- グループ・プロセス
- 効果的なグループ・ワーク
- 頻繁に遭遇する問題
- 終了
- 要約
- 討論と復習のための問題

結果-2：グループを定義する

- 「それぞれの人が影響を与えるか、あるいは互いに影響を与えあうようなやり方で、互いに相互作用する二人以上の人々」
- 不可欠な要素
 1. 理想的には5～7人の参加者，必ず20人以下であること。
 2. グループ・メンバー間の相互作用，およびファシリテーターとの相互作用があること。
 3. 共通の目的を持っていること。
 4. 互いに話したり聞いたりすることや価値・期待・資源を共有すること，またその結果相互依存的になることによってお互いに影響しあうこと。

ショー (Shaw)(1981)

結果-3:グループに参加する価値

- 生存のニーズ, 社会的存在として, 他者とつながりたい
- 4つの人間の基本的ニーズ
 - (1) 身体的感覚 (特に触覚, 視覚, および聴覚) 刺激に対する生物的ニーズ
 - (2) 時間の構造化 (ともに話すこと, 働くこと, 遊ぶこと) に対する心理的ニーズ
 - (3) 親密性 (近くにいること, 考えや感情を共有すること) に対する社会的ニーズ
 - (4) 安全 (他者の保護および支援) に対する生理的ニーズ

エリック・ベルン (Eric Berne)(1963)

結果-4:グループのサイズ

- グループ内のコミュニケーションの量と質に影響
- グループワークに参加するメンバーの動機づけに影響
- 小さなグループには、より高い充足感とまとまりが見られる。
- グループを6~8人より大きくしなければならぬ場合、小さい単位に分割し、最後に互いに再び、大きなグループにするべきである。

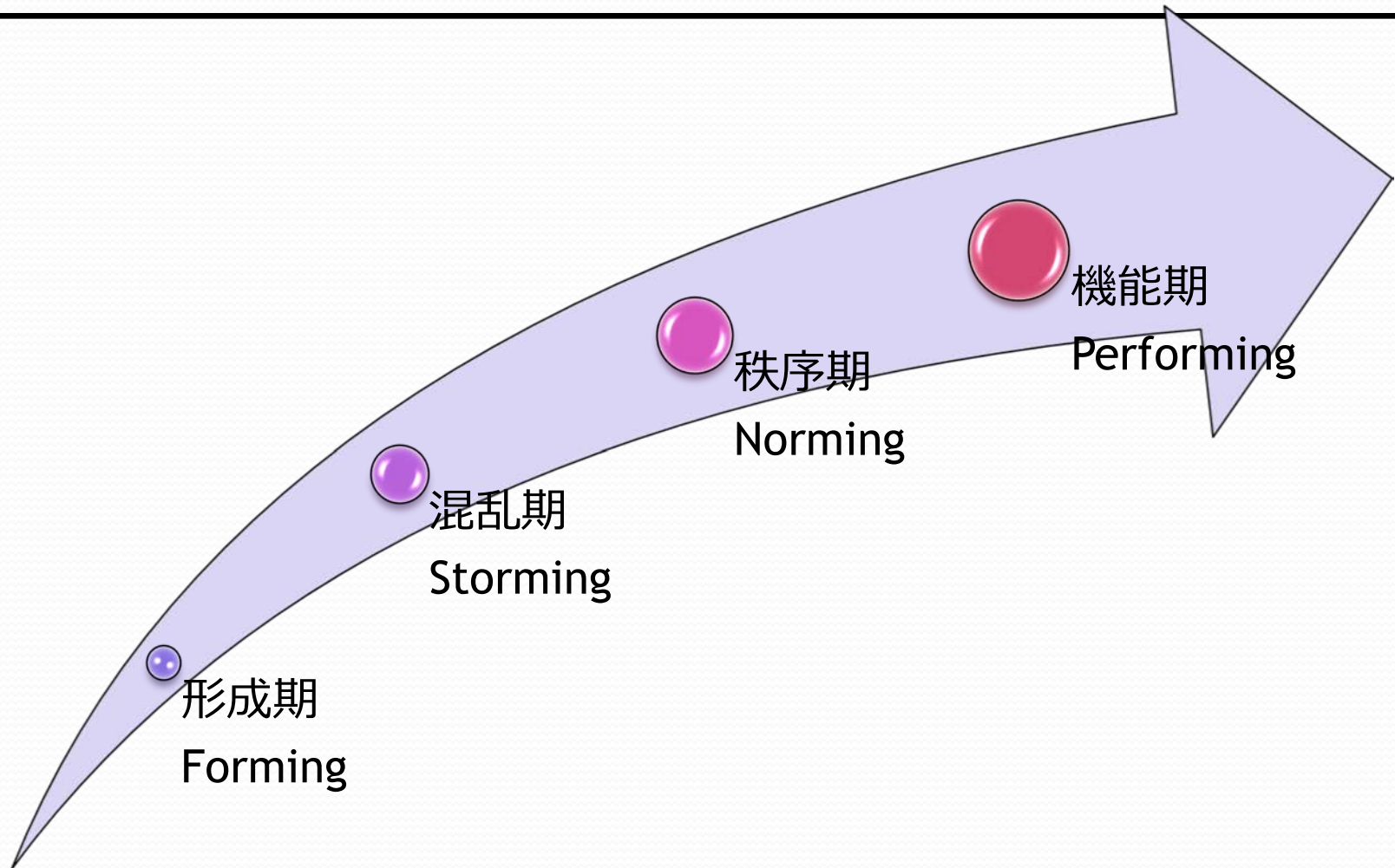
結果-5:グループ・プロセス

- 効果的なグループ・プロセスは、人が他者に反応して動くダンス
- 同期し触れ合う
- 学習者の参加や関与のレベルが高ければ高いほど、影響は大きく、知識は長く保持される。
- グループ・メンバーは尊重されていると感じるときや、新しい学習が生活経験と関係があり、役に立つとき、よりよく学ぶ。

結果-6:グループ・ダイナミクス理論

- ベイルズ (Bales)(1950) , ベイルズとコーエン (Cohen)(1979)
- グループ自体の相互作用
- 「相互作用プロセス分析 (Interactional Process Analysis, IPA) 」 「系統的複合レベル・グループ観察 (Systematic Multiple Level Observation of Groups, SYMLOG) 」
- グループの課題や社会情緒的な活動, グループの発達段階, グループ・メンバーが担う役割のタイプの計画
- 大きな発見: コミュニケーションが果たしている重要な役割
- 最も効果的なグループ: 全てのメンバーがお互いの相互作用に本質的に積極的である, 権力が分かち合われている, 課題志向, 個人やグループの目標に関する目的意識と活発な活動
- 有能なファシリテーター: 管理的領域 (グループ管理と課題指導) , 感情的領域 (人間中心的, 感情に注意する, 「雰囲気管理」) (Bowman, 1990-1995)

結果-7-1:グループの発達プロセス



結果-7-2:混乱期：葛藤

- 健全な葛藤は多様な考えや視点についての考察を深めることができる
- より多くの人々の参加を促進し，課題や主題へのより真剣な関与を促進する。
- 葛藤が問題を明確にする場合もある。
- シュルツ（1989）

結果-7-3：混乱期：葛藤処理

- 正しいか間違っているか，良いか悪いかというレッテルを貼るというやり方をやめる。
- 「私たちのなかには…と強く感じているものがある。他の見方を聞こう・探索しよう」というような一般的な言い方をすること
- リーダーは，グループ内の個人の違い，価値観，姿勢が尊重されることを強調し続けなければならないかもしれない。
- グロス（1993）

結果-7-4：秩序期（Norming）

- 葛藤が率直で冷静に管理されるとき，グループは共同作業の新しいレベルに移行する。
- 予期しない危機，コミュニティの危機，あるいは個的苦痛や不快感の表明
- 効果的管理
- まず，混乱に率直に誠意を持って取り組む
- 次に，グループが責任を分かち合うよう勧め，問題に対処し前進する能力があることを確認する

結果-7-5：機能期（Performing）

- = 効果的なグループ・ワーク
- 基本設計，ミニ講義，プラクシス，よりよいコミュニケーション・スキル，フォロワー・アッパー

結果-8-1:効果的なグループ・ワーク： 基本設計

- その日のトピックと計画，自由回答式で質問する準備，回答のために適切な時間
- 質問を言いかえるか，あるいは別の質問
- 静寂：個人的省察，緊張緩和，人々の考えを収集する豊かな時間
- 参加者に，考える時間を与え，そしておそらく，静寂によって少し不快になる時間を与える
- 最初にメンバーに回答を書くように頼む：グループへの参加を促し，質問について真剣に考えるチャンスと理由を全員に与える。私はもっぱらこの方法だけを使用するわけではないが，それはグループ討論を始めるよい方法になることがある。
- 振り返り・認識，他の回答，共有

結果-8-2:効果的なグループ・ワーク :

ミニ講義

- グループの相互作用
- インプットとグループの相互作用を可能にする。
- トピックに関する応答や身体活動を織り交ぜて、講義時間を10分以内にするように努力しなさい。

結果-8-3:効果的なグループ・ワーク： プラクシス（省察をともなう活動）

- 「省察をともなう活動」 「なすことによつて学ぶこと」
 - ①グループ・メンバーの生活経験から描き出される。
 - ②学習の要点を説明するプロジェクトや課題にグループをかかわらせ、その後、プロセスと成果をともに振り返る（考え語りあう）

結果-8-4:効果的なグループ・ワーク： 終わり方

- 終わる時間に注意を払う。
 - 時間が来たら，進んで議論を止め，終わりに移る。
 - 話や結論の再確認，傷ついた感情や不満を持つメンバーのチェック，次の会を前向きに示すこと。
 - 学んだこと，新しい洞察，参加し続けるためのニーズを熟考し書き留めるために，時間を取る。
 - 達成できたことの確認，次回のこと。
-
- **グループの最後の会合**
 - 終了の時間および未処理事項を片付ける時間
 - グループに関するコメント，質問，別れの言葉，評価アンケートへの記入，今後。

Box 5.2 効果的なグループのためのチェックリスト

- 全てのメンバーが話すチャンスを持っているか。
- コメントは理解されているか。全ての人がフィードバックを受けているか。
- グループ・メンバーはアイデアや意見に関して心を開いているか。議論を表面化させるのを認めるか。
- 各メンバーは、その考えが受け入れられなかったとしても〔他のメンバーから〕認められるか。
- グループは「勝つか負けるか」という状況を回避しているか。
- メンバーは、グループが問題を探究したり、意思決定したりする過程について検討するのを支援するか。
- メンバーは、不一致に簡単に同意するよりむしろ、違いに向き合うよう他のメンバーを促しているか。
- メンバーは、グループが目標を目指して働くのを支援しているか。

資料出所 : Schultz, Beatrice C. Communicating in the Small Group: Theory and Practice Published by Allyn and Bacon, Boston, MA. Copyright © 1989 by Pearson Education. 出版社の許可により転載。